

祝  
辭

本日茲に北海道さけ・ます孵化場の開慶式を擧げられるに當り、一言御祝いの言葉を述べべる機會を得ましたことは、私の衷心より喜びに堪えないところであります。

本道に於ける鮭鱒人工孵化事業は、明治十年札幌市において鱒の孵化試験を行つた事に始まり、明治二十一年北海道廳が千歳孵化場を創設し、人工孵化事業に新生面を開いてから、本事業の効果が一般に認識せられ、更に昭和二年第二期拓殖計畫の實施とともに民營事業に對する助長策によつて急激に施設の擴充が行われ、昭和八年には民營孵化場五十五ヶ所、官營と合せて實に五十八ヶ所の多きに達したのであります。しかしその反面、これらの多くの孵化場間に有機的連繫を欠き、また經濟的に行詰りを來すものも多く、斯業の將來に一抹の暗影を投ずるようになりましたので、民間事業を北海道廳の傘下に糾合する氣運が醸成され、昭和九年民間事業を官營に移管して北海道鮭鱒孵化場の機構の下に國費をもつて經營されることになつたのであります。

その後經營は北海道地方費に移され終戦を迎えたのであります。永い間の戦争の影響によつて、その施設も相當荒廢し、更に千島の施設を失つたことにより、孵化能力も四億一千万粒より一億七千万粒に減少したのであります。しかし沿岸漁業者の自然増加によつて鮭鱒資源に對する漁獲努力は著しく増加される傾向も見受けられるので、孵化事業を急速に強化擴充しなければ、鮭鱒漁業の崩壊を招く懼れがあり、更にまた戦争に生じた本道鮭鱒資源の國際的關連性から、再び本事業は國費で經營されることになり、今

日に至つた次第であります。今回水産資源保護法の制定に伴ひまして永い間北海道の所管にあつた本事業が農林省に移管され、こゝに名實共に國の事業として新に發足することになつたものであります。

今後本事業本來の目的達成の爲の法的裏付によつて運営されることは、その前途に大きな期待と飛躍的發展を約束づけるものであり誠に喜びに堪えないところであります。

しかしながら本事業の現況に徴し、その前途には尙多くの困難性が豫想されます。

道は勿論全面的協力を惜しまないものであります。關係各位におかれましても從來以上に本事業の眞意を理解され一層御協力をお願い致しますと共に北海道さけ・ます孵化場新設の意義あらしめる様特にお願ひ致しまして簡単ではあります。が御祝の言葉と致します。

昭和二十七年六月二十七日

北海道知事 田 中 敏 文

## 祝 辭

薫風頼に爽やかにして緑一入濃き今日の日、北海道さけ・ますふ化場の開廳を祝し、併せて事業の功勞者を表彰する儀に列し、茲に祝意をのべる機會を與えられたることは私の最も光榮且つ欣快とするところであります。

惟うに現下の國情はさきに日、米、加三國漁業協定の調印を見、近隣諸國との誼は未だ成らずと雖も現在既に遠く北洋に鮭鱒を追いつゝあり戦後の水産事情に復興の針路を大きく開いている事は、誠に御同慶に堪えないところであります。

然しながら一方國內では昨年既に水産資源保護法の制定を見るに至り水産資源の枯渇は今や消極的な對策では如何ともしがたい實情に立ち至つております。

この秋に當り資源に對する積極的な施策として七十年の歴史をもつ本道の鮭鱒人工孵化事業を國家が直營する學に出たことはまことに時宜を得た措置と存じ喜びに堪えないところであります。

凡そ小國にして止みがたきことゝは雖も斯る鮭鱒に對する積極的な資源の涵養は他に例の見ないところであり、近隣列強に互して自らの資源對策を示し得ることの誇と、強く感ずるものであります。

然し乍ら人工孵化事業については、今後に残す問題又少しと致しませぬ一方には、實施に就いて起る水質汚濁、稚魚の混獲或は密漁等幾多の改善を要する行政技術上の施策を必要とし、又他方には人工孵化と天然孵化に對する科學的な再檢討が要望されてをり、最も合理的な經營への研究は今後一層の努力が必要とされております。

こゝに於て關係職員の御努力は勿論關係各位のより深い御支援を得て一致斯業の確立に努めるべきものと信ずるものであります。

本日開廳の盛儀を擧ぐるのよき日に當り、遙に七十年に及ぶ事業の發展に盡された先人の迹を偲びつゝ一言以て祝辭と致します。

昭和二十七年六月二十七日

衆議院議員代表 林 好 次

## 謝 辭

本日北海道さけ・ますふ化場開場の式典に當り、官民各位御臨席の下に鮭鱒孵化事業發展の功勞に對し、表彰さるゝ光榮に浴したことは、私共一同感激に堪えざるところであります。

顧れば明治十年札幌偕樂園に於て、本道最初の人工孵化試験が行はれて以來七十有五年、此の間先人の獻身的努力に因て今日の盛況を招致し着々として効果を收めておることに對しては慶祝の念ずる能はざるところであります。

私共は孵化事業に關心を持ちその達成に協力を惜しまなかつたが、徒らに長歲月を費したのみで、微力取て今日の光榮に値する貢獻はなし得なかつたことを深く愧づるものであります。日本の再建は諸般の科學文明の施設に頼らねばならないのであるが、その反面に於てこれが孵化事業の効果を減殺することが増發するは明かであるから、今後特段の努力を拂つて増殖の實を擧ぐることに勉めねばならないのであります。私共は今日享けた岡らざる光榮を契機として駕馬に鞭打ち、一層の奮勵を期するものであります。茲に私共の決意を披瀝し感謝の意を表する次第であります。

昭和二十七年六月二十七日

表彰者代表 半 田 芳 男